

宮島沼カントリーフェス2023

2023年8月27日に、4年ぶりに開催された宮島沼カントリーフェス。今年は宮島沼のラムサール条約登録20周年記念でした。しめっちネットは湿地VR体験やグッズ交換の募金などを行いました。THE Horse Bone Bros.の3名と当会の鈴木玲代表は、宮島沼で生まれた名曲「湿地、知っちゃった」を軽トラの上で熱唱しました。

展示・体験ブースや飲食ブースがたくさん並び、湿地に触れ合えた1日でした。



簡単に湿地を散策できちゃう!? VR体験ブース 「湿地、知っちゃった」熱唱中! THE Horse Bone Bros.

しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集! 一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか?

- 正会員**
当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。
年会費 5,000円
- 賛助会員**
当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メンバーリストでネットワークの情報が提供されます。
年会費 5,000円(団体) 1,000円(個人)
- サポーター**
当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。



お問い合わせ・お申込み
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク (しめっちネット)
 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 405号室
 ishikari.wetland@gmail.com http://ishikarigawa-net.com/

しめっちネットのHPで最新情報も見てね!



石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク **The Shimecchi Report**
 ニュースレター vol.9 Dec. 2023

報告 スゲ刈り取り しめ縄作り

家庭用のメ縄作りは毎年開催していますが、今年度はついに、自分たちで刈り取ったスゲで社に奉納するメ縄を作ることができました。

石狩川の河畔林内や月形町の里山にある湿地のカササゲ群落で、春からヨシ刈り等の整備を複数回行い、2023年7月17日に刈り取りを行いました。収穫した束からスゲ以外の植物や枝などを取り除き、端を揃えて束ねます。15年ほど前までメ縄を編んで江別市内の神社に奉納されていた農家さんとお縁があり、納屋でスゲを乾燥させていただきました。そして、9月18日にメ縄作りを教

えていただきました。まず2束をねじりながら締め上げ、そこにもう1束を練り込みます。スゲを継ぎ足しながら、必要な長さまで編みました。缺で形を整えた後、縄に板を乗せて体重をかけて縄を転がし、全体のねじれを均等にします。ぼんぼり型の房を3個作り、メ縄本体に差し込んだら完成です。とても良い香りのする立派なスゲ製

のメ縄ができました!

今回編ったメ縄は、美幌市宮島沼近くの大富神社に奉納する予定です。鳥居にかけられる来年の春の例大祭がとても楽しみです! 奉納までは宮島沼水鳥・湿地センターに保管・展示されていますので、ぜひ見に行ってください。

古来よりメ縄は、身近に生える湿地の植物(稲も含め)を編み、祀られてきました。スゲはその代表的な素材ですが、現在ではスゲが生育するような湿地が激減しています。編む人々の高齢化やコミュニティ力の低下も相まって、メ縄の石油製品化や輸入品化などが進んでいます。

当会では、湿地の減少とともに消失の危機にある文化を見直すことを通じて、多くの方々に湿地の魅力や自然環境と文化を後世へ残していきたいと考えています。今後もスゲが生育する湿地の保全やスゲ田作りなど、地元産のスゲでメ縄を作る文化を残す活動を進めていきます。



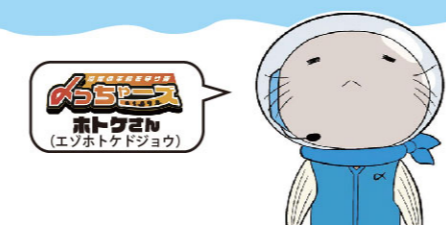
林内に群生するカササゲ



7月に刈り取ったカササゲ



スゲ以外の植物を取り除いている様子



浜厚真 Nature & Surf 2023

2023年8月6日にNSA公認サーフィン大会の第3回厚真町長杯とコミュニティイベントmeet up ATSUMAIにあわせて、浜厚真の自然の魅力と価値を伝えるブース展示と自然観察会「浜厚真ネイチャー&サーフ2023」を開催しました。

浜厚真には胆振・日高地方随一の広大な自然海岸が広がり、チュウヒやタンチョウ、カワラハンショウなどの貴重な生息地となっていますが、大規模な風力発電事業が計画されています。しめっちネットでは、2021年から浜厚真の生物相を把握し、浜厚真の自然の魅力と価値を伝えるための活動をしてきました。今回はサーフィンイベント主催者のご協力により、浜厚真海岸の一番の利用者であるサーファーと地域のみなさまに浜厚真の自然と生きものの魅力をアピールしてきました。

ブースには魚類、昆虫類、植物の生体展示(ニホンウナギも!)をはじめ、北大博物館所蔵の昆虫標本が展示されました。午前午後にわけて開催した植物と鳥、昆虫を中心とした自然観察会はいずれも満員御礼。専門家の解説や砂浜の昆虫の採取体験など、生きもの好きの少年少女だけでなく、大人達にもかぶりつきで楽しんでいただけました。

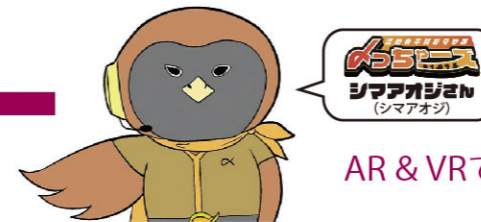


魚類、昆虫類、植物の展示ブース



浜厚真の自然の魅力をアピールした運営スタッフ

report



AR & VRで体験しよう 石狩川河口で湿地色々体験

2023年8月26日に、石狩川河口周辺のはまなすの丘公園と、石狩湾新港北防波堤北側の三線浜で「湿地を守る戦隊メっちゃーズ」AR体験を行いました。

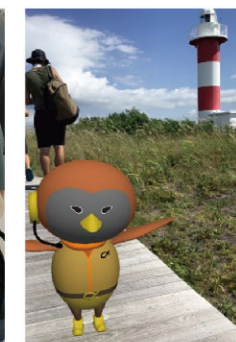
彼らは、湿地保全活動を多くの人に知ってもらい仲間を増やす、環境保全の新しい取組を目的として制作した環境保全アンバサダーを担うキャラクター達です。本イベントではInstagramのAR機能を使用し、メっちゃーズとの交流を行いました！

石狩浜海浜植物保護センター内で、KDDI様から借用したiPadを参加者に渡し、InstagramでメっちゃーズのARを見たり動かしたりする方法を説明した後、はまなすの丘公園に広がる草原の中の木道を歩きながら、ARを動かしたり風景をバックに撮影をしたりと楽しみました。

参加した子ども達の他、大人の方々からも「面白い!」「もっとこうして撮ってみよう!」「このメっちゃーズのキャラクターが好き!」などの声が上がリ、とても楽しんでもらうことができました。



iPadでAR機能の使う子ども達



はまなすの丘公園をバックにARを動かし、撮影

report

湿地と生きる知恵と文化を学ぶ ヒシの実料理

4年ぶりに開催したヒシの実料理WS。開催しなかった年にも問い合わせがあるほど、興味を持ってくださる方が多い人気の会です。

ヒシは、池や沼の水面に葉を浮かべる、浮葉植物の一種です。夏から秋にかけて白い小さな花が水面に咲き、葉の裏(水中)に実がなります。アイヌ語ではこのヒシの実をベカンベ(ベカンベ)と呼び、デンプンが多く含まれているため、湖畔のコタンの人々にとって重要な食糧だったそうです。

2023年9月に当別町の池でヒシの実を採取し、10月1日に利活用のWSを開催しました。アイヌ文化活動アドバイザーである川上裕子さんのご指導の下、アイヌの方々がかつ食べているお料理5品を教えていただきました。昼食後には、裕子さんのこれまでのご経験などのお話をお聞きした他、アイヌ模様の意味や、ウポポ(歌と踊り)も教えていただきました。

今後は、胴長を履いて池に入り、ヒシの実を収穫する体験会も開催できればと思っています。当会は、湿地を守り育てていくため、湿生植物の利活用を行い、より多くの方に湿地の必要性や大切さを知ってもらいたいと思っています。今回の会を通して、ヒシや湿地に興味を持ってくれた方がいたらとても嬉しいです。



葉の裏になったヒシの実



当別町で採取したヒシの実



オハウ、シト、ラタシケブなどのお料理5品

当別町 蕨岱 湿地探索会



ミスゴケ(奥)とモウセンゴケ(手前)



蕨岱湿原を観察する参加者のみなさん

2023年7月30日、当別町蕨岱湿原探索会は猛暑の中での開催でした。15名の参加者に恵まれ、当別町にお住まい方や近郊の方が参加してくださいました。長袖長靴で蒸し暑い中のササ漕ぎやでこぼこの道歩きは大変でしたが、どなたも体調不良にならず実施できて良かったです。ミスゴケやモウセンゴケの観察、ヤチヤナギの香りや湿原のふかふか感を体験してもらえました。この会が初湿地という人や、身近に湿地があることが知れた、先人が苦労して開拓した思いが伝わったなどの感想もいただき、蕨岱近郊にお住まいの方に参加してもらえたことには意義がありました。ソーラー発電計画からの湿原核心部分の保全や、希少な動植物がいること、泥炭採掘跡などの開拓の歴史など、今と昔が繋がる探索会になったと思います。管理など課題も多くありますが、今を受け止め、改めて自然に感謝していこうと感じました。少しずつ認知が広がっていくことを期待したいです。

しめっち 会員紹介



北海道希少生物調査会 Hokkaido Rare Animal Researchers



北海道希少生物調査会の寺島淳一です。最初に、私はあえて「北海道は「自然豊かだった」と言わせていただきます。人類には地球のほかに居場所がありません。元に戻せる限界を超えたとされる地球の自然環境はこの先さらに大切なものになっていきます。世界はネイチャーポジティブ時代に突入したのです。しかしそんな時代にありながら、私たちの暮らす北海道では時代に逆行する数々の環境問題が多くみられ、歯止めがかかりません。同時にそれらの場所で人知れず暮らしている動物たちは多くの場所で危機に直面しています。私たち北海道希少生物調査会はそのような動物たちの存在を「認知してもらう」ために活動しています。北海道らしい自然を取り戻せるよう働きかけていきたいです。



ひと column 白川 勝信さん

12/9の2023しめっちフォーラムで登壇します!

2023年3月まで、広島県北広島町芸北で、フィールドミュージアム「高原の自然館」の学芸員をしていました。20年間の勤務の中で、里山林や草原などを保全する活動を整えたり、保護区を設置する条例を作ったりしました。

中でも、就職して最初に手がけた仕事は八幡湿原の自然再生事業でした。広島大学で学んでいた時代から、「ミティゲーション」に興味を持ち、八幡湿原の成り立ちや消失の過程を研究していたので、大学での研究を実践に活かすことができたのは幸運でした。八幡湿原は芸北の八幡高原に点在する20あまりの湿原群です。八幡高原は標高が約700メートルの盆地で、年間を通じて冷涼で積雪が多いため、西日本では珍しく泥炭が蓄積する湿原が成立しています。再生事業は、牧場開発によって失われた八幡湿原のひとつ「霧ヶ谷湿原」に導水することで湿地の再生を図る取組で、今も再生の過程にあります。

一度損なわれた自然を取り戻すには、多大な労力が必要になります。現存する湿原の価値を正しく評価し、伝えることが、今を生きる私たちの役割だと思います。



八幡湿原自然再生事業が進められている霧ヶ谷湿原